

# 選択的評価事項に係る評価

## 自己評価書

令和元年6月

佐世保工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
  - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
  - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字以下を目安とすること。なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

（法）学校教育法、（設）高等専門学校設置基準

## I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	佐世保工業高等専門学校
2. 所在地	長崎県佐世保市沖新町
3. 学科等の構成	準学士課程：機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、物質工学科 専攻科課程：複合工学専攻（機械工学系、電気電子工学系、情報工学系、化学・生物工学系）
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：複合工学専攻（機械工学系、電気電子工学系、情報工学系、化学・生物工学系）） J A B E E 認定プログラム（専攻名：複合型もの創り工学） その他（なし）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：885人 教員数：専任教員60人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>(1) 沿革</p> <p>高度経済成長の基盤を支える中堅技術者の育成という社会的要請によって佐世保工業高等専門学校（以下本校という）は高等専門学校の第一期校として、昭和37年度に機械工学科（2学級）と電気工学科（1学級）の2学科が設置され、昭和41年度に工業化学科が設置された。昭和44年度には、長崎県の離島や県外からの学生を受け入れるべく、低学年（1、2年生）の全寮制を開始した（現在も継続中）。次いで昭和63年度には2学級であった機械工学科のうち1学級を電子制御工学科に改組し、現在の4学科、学生定員160名/1学年となった。更に、平成3年度にはバイオテクノロジーの台頭および産業界の要請に合わせて、工業化学科を物質コースと生物コースからなる物質工学科に改組した。また、平成9年度には高専卒業生に、より高度な教育・研究を実施する課程として機械工学、電気電子工学、物質工学の3専攻からなる専攻科（定員16名）を設置した。なお、平成16年度より、教育プログラム名「複合型もの創り工学」がJABEE認定されている。平成17年度には情報・電子工学を取り入れた授業を積極的に行ってきた実情に合わせ、電気工学科を電気電子工学科に名称変更した。平成24年度には、高度化・複合化が加速する工学分野に即応できる高度技術者育成を目的に、専攻科を1専攻（複合工学専攻）4工学系（機械工学系、電気電子工学系、情報工学系、化学・生物工学系）に改組した。更に専攻科では、平成28年度に数理情報技術を工学や産業分野に取り入れた教育を行う、産業数理技術者育成プログラムが設置された。</p> <p>(2) 準学士課程教育の特色</p> <p>自主自律に基づく5年間一貫教育を背景として、本校は低学年から専門分野への導入教育（くさび型カリキュラム）を行う一方、教養科目の充実を図り、広い知識と豊かな教養を身につけることに配慮したカリキュラムを実施している。また、実験・実習やクラブ活動を重視し、実践的な技術者の育成を目指している。</p> <p>開校以来、7,500名以上の卒業生を実践的技術者として社会に送り出し、高い評価を得ている。求人倍率は、高校・大学などの教育機関に比べ極めて高く、就職率はほぼ100%を堅持している。これは、本校の教育理念（Ⅱ 目的参照）の実践によりもたらされた結果である。なお進路は、卒業生の約60%が就職し、約40%が専攻科へ進学および大学へ編入学している。</p> <p>(3) 専攻科課程教育の特色</p> <p>専攻科課程ではカリキュラム構成に大きな特徴を有しており、準学士課程で修得した専門分野を更に深く学修するとともに、総合創造演習、総合創造実験のような他分野の実験実習を取り入れ、総合的かつ複合型実践教育を実施している。さらにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の養成に注力し、学協会等での研究成果の発表を課している。平成17年より実施している中国厦門理工学院との学術交流では、同学院での研修はもとより、異文化交流プログラムも実施している。また、技術者総合ゼミでは産学各方面より講師を招き、様々な分野における実践的な取組についての講演をプログラムしている。これらにより、近年の高度で複雑化した技術および国際化した社会に</p>	

## 佐世保工業高等専門学校

対応できる、問題解決能力を備えた創造性豊かなもの創り技術者の養成を目指す課程としている。また、高度な数学を活用できる技術者の養成を目指して開設された「産業数理技術者育成プログラム」では、九州大学マス・フォア・インダストリ研究所と連携協力に関する協定を締結しており、数学と工学が融合したプログラムとなっている。

## II 目的

「佐世保工業高等専門学校は、教育基本法にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた有益な技術者を育成することを目的とする。」  
【佐世保工業高等専門学校学則第1条】とし、準学士課程ならびに専攻科課程において、各々次の教育理念ならびに教育目的を掲げている。

### 1. 教育理念

準学士課程（本科）5年間に亘る一貫教育を通して、ものづくりの基盤を支える技術者に要求される基礎学力と高い専門知識を身につけ、創造性と実践力に富み、豊かな教養と人間性、国際性を備え、社会に貢献できる人材を育成する。専攻科では、他分野の専門的基礎を学ぶ融合型教育を通して、複眼的視野をもつ人材の育成を目指す。

【佐世保工業高等専門学校の教育理念等に関する規則第1条】

### 2. 教育目的

#### 2. 1. 準学士課程の教育目的

- (1) ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な職業意識、学習意欲を養成する。
- (2) 高度科学技術の中核となって推進するための基礎知識と基礎技能、専門知識を身につけ、自ら課題を探究し、解決できる能力を養成する。
- (3) 実験実習など体験学習を重視して豊かな創造性と実践力を養成する。
- (4) 論理的な思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成する。
- (5) 情報技術の進展に対応できるよう、全学科において情報リテラシーを養う。
- (6) 豊かな教養と倫理観を身につけ、地球的な視野で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する。

【佐世保工業高等専門学校の教育理念等に関する規則第2条】

#### 2. 2. 準学士課程の人材の養成に関する目的、その他の教育上の目的

##### 2. 2. 1. 一般科目の人材の養成に関する目的、その他教育上の目的

- (1) 人文・社会・保健体育系科目では、心身ともに豊かな人間性と倫理観を養成する。
- (2) 理数系科目では、実験・実習の体験的学習を重視し、理論と実践に導かれた創造性と実践力を養成する。
- (3) 国語・英語系科目では、国際的に活躍できる技術者としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図り人間力を養成する。
- (4) 専門科目との連携を図り、専門科目学習につなげるための基礎学力・応用力を養成する。

【佐世保工業高等専門学校の教育理念等に関する規則第3条】

##### 2. 2. 2. 機械工学科の人材の養成に関する目的、その他教育上の目的

- (1) 材料力学・機械力学・熱力学・流体力学という4つの力学科目の習得を通して、機械工学系技術者としての基礎能力を養成する。
- (2) 機械工作、機械材料、機構、設計などのものづくり技術関連分野に加え、制御工学や電気・電子工学分野などのメカトロニクス技術関連分野の習得により、機械装置・機械システムの設計開発能力を養成する。
- (3) ものづくりの基盤となる機械製図や機械工作実習、機械工学実験を通して実践力を育み、卒業研究では自学自習能力の向上とともに、総合的な課題解決能力および技術開発能力を養成する。

【佐世保工業高等専門学校の教育理念等に関する規則第4条】

##### 2. 2. 3. 電気電子工学科の人材の養成に関する目的、その他教育上の目的

- (1) 電気回路や電磁気学などの工学系基礎科目の習得を通して、電気電子系技術者としての基礎能力を養成する。
- (2) 電気工学、電子工学および情報通信工学の三分野の幅広い技術を教授し、エネルギー・エレクトロニクス・コンピュータ分野で課題を追究・解決できる能力を養成する。
- (3) 電気電子情報工学実験や実習などの実践的学習を通して、計画・遂行・データ解析・工学的考察および説明能力を育み、卒業研究においては技術開発能力を養成する。

【佐世保工業高等専門学校の教育理念等に関する規則第5条】

##### 2. 2. 4. 電子制御工学科の人材の養成に関する目的、その他教育上の目的

- (1) 情報通信系、電気電子系、機械制御系の基礎科目の習得を通して、電子情報・制御系技術者としての基礎能力

を養成する。

(2) ソフトウェアや電子制御システムの理解を通じて、コンピュータや電子回路技術を応用した自動化システム・ロボットシステム・知能化システムのデザイン能力を養成する。

(3) 情報処理や工学実験などの実験実習を通して実践力を育み、卒業研究では自学自習能力の向上とともに、問題解決能力および技術開発能力を養成する。

【佐世保工業高等専門学校の教育理念等に関する規則第6条】

#### 2. 2. 5. 物質工学科の人材の養成に関する目的、その他教育上の目的

(1) 有機化学系、無機化学系、分析化学系、化学工学系および生物工学系の基礎科目の習得を通して、化学・生物系技術者としての基礎能力を養成する。

(2) 物質コースでは機能材料工学などを学習し、生物コースでは分子生物学などの理解を通じて、化学および生物工学領域における課題探究能力を養成する。

(3) 物質化学実験により実践力を育み、卒業研究により自学自習能力の向上とともに、課題解決能力および技術開発能力を養成する。

【佐世保工業高等専門学校の教育理念等に関する規則第7条】

#### 2. 3. 専攻科過程の教育目的

(1) 工学の基礎および専門分野に関する知識を教授し、創造性豊かな応用力を養成する。

(2) 地球的視点でものごとを考える素養および能力と、科学技術が自然や社会に及ぼす影響を理解できる人間としての倫理観を養成する。

(3) 日本語による技術的な内容の説明・討論ができる能力と国際社会を意識した英語によるコミュニケーション基礎能力を養成する。

(4) 他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識を教授し、複合化・高度化した工学分野について複眼的な課題探求能力と問題解決能力を養成する。

(5) 自主的・継続的に学習でき、協調して行動できる能力を養成する。

【佐世保工業高等専門学校の教育理念等に関する規則第8条】

#### 3. 達成しようとしている基本的な成果

本校の教育課程は、準学士課程、専攻科課程の教育目標にそって系統的に配置されている。これを低学年から順に学修することにより、以下の基本的成果を身につけることができる。

##### 3. 1. 準学士課程

明確な職業意識と自ら学習する能力、技術者としての基礎知識・技能、基礎学力・専門知識と専門技術及び自ら課題を探究し分析・解決する基礎能力、豊かな創造性と実践力、論理的思考力とコミュニケーション能力、情報技術と情報リテラシー、豊かな教養と倫理観などを身につけることができる。

##### 3. 2. 専攻科課程

準学士課程を基礎とした、より深い専門知識・専門技術が身につく。さらに他の専門分野並びに総合創造実験、総合創造演習などを学修することにより複眼的な課題探求能力と問題解決能力、創造性・実践力の素養が身につく。また地球的視野と倫理観をもつ技術者として国際的に活躍できる基礎を身につけることができる。

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

<p><b>評価の視点</b></p> <p>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</p>	
<p>観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条第2項</p>
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-1-(1)-01 「中期目標」</p> <p>資料 A-1-1-(1)-02 「年度計画」</p>
<p>観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。</p> <p>○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。</p> <p>○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-2-(1)-01 「組織」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-02 「運営組織図」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-03 「地域共同テクノセンター組織図」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-04 「科研費WG設置要項」</p>
<p>(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-2-(2)-01 「教室等配置図」</p> <p>資料 A-1-2-(2)-02 「地域共同テクノセンター平面図」</p> <p>資料 A-1-2-(2)-03 「技術シーズ集（研究機器）」</p>
<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-2-(3)-01 「時間割個人別一覧」</p>

<input type="checkbox"/> 整備していない	資料 A-1-2-(3)-02「校長裁量経費（研究促進経費）公募要領」 資料 A-1-2-(3)-03「科学研究費補助金インセンティブ経費（校長裁量経費）取扱要領」 資料 A-1-2-(3)-04「科研費 WG の査読体制に関する資料」
(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行われている <input type="checkbox"/> 行われていない	◇研究活動の実施状況がわかる資料 資料 A-1-2-(4)-01「技術シーズ集」 資料 A-1-2-(4)-02「科学研究費補助金申請状況」
<b>観点 A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</b>	
<b>【留意点】</b> ○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。 ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。	
<b>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</b>	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
<b>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</b>	<b>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</b>
(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 得られている <input type="checkbox"/> 得られていない	◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料 資料 A-1-3-(1)-01「外部機関への論文数および口頭発表数」 資料 A-1-3-(1)-02「科学研究費補助金採択状況」 資料 A-1-3-(1)-03「共同研究等受入状況」
<b>観点 A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</b>	
<b>【留意点】</b> ○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。	
<b>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</b>	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
<b>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</b>	<b>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</b>
(1) 観点 A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇改善の体制がわかる資料 資料 A-1-4-(1)-01「自啓録（校長面談資料）」 資料 A-1-4-(1)-02「科研費WGによる査読」 資料 A-1-4-(1)-03「外部評価委員による研究活動、産学連携及び地域貢献に対する意見・提言」 資料 A-1-4-(1)-04「特例適用専攻科指導補助教員の審査に関する申合せ」

	<p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p>
<p><b>A-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>本観点については、特例適用専攻科との認定に係る結果を利用できると判断する。</p>	

<p><b>選択的評価事項A 目的の達成状況の判断</b></p>
<p> <input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である         </p>

<p><b>選択的評価事項A</b></p>
<p><b>優れた点</b></p> <p>研究推進のため、成果を上げることも目的として校長裁量経費を配分している。          校長補佐（研究担当）と科研費WG、地域共同テクノセンターを中心に、全学的な研究活動推進を図っている。          地域共同テクノセンターが、産官学民交流組織「西九州テクノコンソーシアム」と協力して、地元企業からの技術相談や本校の研究シーズと企業のニーズのマッチングを図っている。</p>
<p><b>改善を要する点</b></p>

**選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況**

<p><b>評価の視点</b></p> <p><b>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</b></p>	
<p>観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料 B-1-1-(1)-01 「学則」</p> <p>資料 B-1-1-(1)-02 「地域共同テクノセンター規則」</p> <p>資料 B-1-1-(1)-03 「技術相談取扱規則・実施細則」</p> <p>資料 B-1-1-(1)-04 「佐世保工業高等専門学校図書館利用規程」</p>
<p>観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ 実施体制について分析することは必須ではない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。</p> <p>■策定している</p> <p>□策定していない</p>	<p>◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料</p> <p>資料 B-1-2-(1)-01 「年度計画」</p> <p>資料 B-1-2-(1)-02 「出前授業の web ページ」</p> <p>資料 B-1-2-(1)-03 「公開講座の web ページ」</p> <p>資料 B-1-2-(1)-04 「技術相談の web ページ」</p>
<p>(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>資料 B-1-2-(2)-01 「平成 30 年度公開講座・一般教養講座の web ページ」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-02 「技術相談受入決定通知書の一例」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-03 「「出前授業」の実施報告」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-04 「「おもしろ実験大公開」の実施報告」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-05 「図書館の学外者向け利用案内」</p>
<p>観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p>	

○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。</p> <p>■認められる</p> <p>□認められない</p>	<p>◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）</p> <p>資料 B-1-3-(1)-01 「技術相談受入実績」</p> <p>資料 B-1-3-(1)-02 「公開講座・一般教養講座参加者数一覧」</p> <p>資料 B-1-3-(1)-03 「公開講座アンケート結果」</p> <p>資料 B-1-3-(1)-04 「「おもしろ実験大公開」参加者数」</p> <p>資料 B-1-3-(1)-05 「「おもしろ実験大公開」アンケート結果」</p> <p>資料 B-1-3-(1)-06 「出前授業参加者のべ人数」</p> <p>資料 B-1-3-(1)-07 「一般利用者貸出人数推移」</p>
<p>観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</p> <p>○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>資料 B-1-4-(1)-01 「「おもしろ実験大公開」実行委員会会議資料」</p> <p>資料 B-1-4-(1)-02 「「おもしろ実験大公開」教職員アンケート結果」</p> <p>資料 B-1-4-(1)-03 「公開講座の教職員向けアンケート結果」</p> <p>資料 B-1-4-(1)-04 「地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨」</p> <p>地域貢献活動である出前実験や公開講座等は地域共同テクノセンターが所管しており、計画、広報、実施支援、アンケート調査結果の集計を行っている。これらの活動について、地域共同テクノセンター運営委員会にて報告を行い、次年度へ向けた改善点について審議している。また、以上については教員会議において全教員へ報告している。なお、おもしろ実験大公開については、学校全体で取り組む行事となっているため、広報委員長、テクノセンター部門長、各学科の委員から構成される『おもしろ実験大公開実行委員会』を別途組織し、計画、実施支援、アンケート調査結果の集計、次年度へ向けた改善を審議し、教員会議で報告を行</p>

	<p>っている。</p> <p>◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p>
<p><b>B-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	

<p><b>選択的評価事項B 目的の達成状況の判断</b></p>
<p> <input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である         </p>
<p><b>選択的評価事項B</b></p>
<p><b>優れた点</b></p>
<p>           ・小中学生や一般を対象とした教育サービスの件数は多く、小中学生に対する理科教育支援の機会を増大することに貢献している。            ・本校の出前実験が広く地域に認知されていることから、小中学校や地域の団体からの出前授業依頼が多数あり、全教員および全技術職員へ呼びかけて実施担当者を選定している。            ・本校主催の科学イベント「おもしろ実験大公開」には2,000人以上の来場者があり、長崎県の科学イベントとして地域に広く受け入れられ、参加者から高い評価を得ている。         </p>
<p><b>改善を要する点</b></p>